

1 日時 令和3年10月8日（金） 9：30～11：30

2 会場 本校会議室

3 出席者 委員9名〔欠席者：大島美栄子委員〕

事務局（学校関係者）8名

4 内容

（1）開会あいさつ〔原田校長〕

（2）授業見学

（3）協議

【議案1】 学校防災と地域防災について

〔事務局〕ハザードマップを基に、本校の防災上の立地条件及び、防災教育や防災訓練の実施状況について、説明した。

〔委員〕避難訓練において、普段通れる通路が通れないような訓練を行う場合の子どもたちの様子は、どのようなだったか。

〔事務局〕非常時にどう行動すべきかについて、事前指導を行っており、パニックになる子どもはいなかった。何度も経験することで、積み重ねが活きているとも思われる。

〔委員〕災害発生時に、一時避難所を経て、福祉避難所へ行くという手順だが、初めから学校で受け入れる体制をとる方が安心すると思われるが、それはできないのか。

〔事務局〕防災に関しては、行政の管轄になっている。国の方針を受け、笠岡市でも検討していると聞いている。

〔委員〕大規模災害発生時には、笠岡市役所がまず被害を受けると言われている。学校としても、在籍児童生徒を守ることを最優先に考えて、学校独自で動くことも考えていかねばならないのではないかと。そのような取り組みができる学校であれば、子どもを預ける親としても安心感が持てるのではないかと。思う。

〔中野会長〕笠岡学園の取り組みはどうか。

〔委員〕笠岡学園は、地域の指定避難所になっている。まずは、利用者最優先して安全確保する。次に、地域の子どもたちの安全確保へ協力するようになっている。

〔委員〕災害発生時には、子どもたちは安全な学校にいるのがよいかと思う。そのために、学校では、何日間耐えられるか考えておく必要がある。学校にある発電機や備蓄の飲料水についての検討も必要である。池の水をろ過して使用する等の検討も必要であり、学校の中で子どもたちを守っていけるノウハウを身に付ける必要がある。

〔委員〕学校にいるときに災害が発生した場合、必ず電力を必要とする子どももいる。災害発生時は、迎えがくるまでは、何とか命をつないで引渡さねばならない。

〔委員〕職員の中にも、優先的に家に帰らないといけない人がいると思う。その優先順位を把握することも大切だと思う。

〔委員〕避難場所には電気が大事である。蓄電池に常時電気をためておくことがいいが、現時点の施設では難しい。最近では電気自動車の電気を使うということならできるのではないかと。そのための電気自動車を学校へ配備することなど、県に相談してみてもいいのではないかと。

〔中野会長〕学校では、災害発生時の備えをしているが、今のような意見を基に、学校滞在時や下校時、家庭滞在時等、いろいろな時間を想定して、それぞれのパターンを考えておくなど、防災対策をお願いしたい。

【議案2】 重点協議事項の進捗状況の報告

ア) 韓国のチョンゲン学校との国際交流

委員の紹介で、中学部生徒が、11月と12月にオンライン交流を行う計画である。

イ) 地域との協力による作業学習

大井公民館にペットボトル回収箱を設置し、高等部の作業学習において、地域住民の協力を得たいと思っている。地域へ回収箱を設置し、ペットボトルを地域から集める過程で、生徒のコミュニケーション力の向上を図ったり、地域への発信をしてしていきたいと思っている。

ウ) 開校40周年記念 セイもんリニューアルプロジェクト

井原市の地域ボランティアの方々と、セイもんづくりに取り組んだ。全校の児童生徒が和紙貼りを行った後に、中・高等部の生徒や肢体不自由部門の児童生徒が色付けに取り組んだ。初めて会うボランティアの方々と活動だったが、子どもたちは落ち着いて活動に取り組めた。10月19日に40周年開校記念式において、新しいセイもんを披露する予定である。

(4) その他

〔委員〕作業学習で、子どもたちが苗ポットを手で洗っている姿を見たが、使いやすい道具を、実際に使用する生徒たちに作らせてみてはどうか。

〔中野会長〕自分も野菜を作っているが、手で洗う方が確実に洗える。子どもの実態に応じて、手で洗うことが困難な場合は特別な道具があるのかなとは思う

〔委員〕苗ポットはたわしを使って洗っている。ただ、素手で洗うことはあまりよくない。土の菌がたくさんあって不衛生である。

〔事務局〕生徒にあった道具の工夫をしてみたいと思う。

(5) まとめ

〔中野会長〕子どもは、みんな同じではない。ひとりひとりに応じた支援指導がなされていく姿を今日の見学を通して見る事ができた。今後も子どもたちのために、頑張っていたきたいと思う。

(6) 閉会あいさつ